

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200888		
法人名	特定非営利活動法人 ありがとさん		
事業所名	グループホーム だんけーと有延 2F		
所在地	山口県岩国市周東町下久原36-1		
自己評価作成日	平成23年8月28日	評価結果市町受理日	平成24年4月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】2階

人としての普通に生活できることを目指します。認知症を疾患として正確に捉えたうえで、その人にとって当たり前の生活ができるように支援することが私達の役割と考えます。その人の人生の仕上げのお手伝いをさせて頂いて、私達自身も人として成長させて頂いていると考えます。介護する人、される人の関係ではなく、一緒に生活している人として、目配り、気配り、心配り、そして思いやりを胸に穏やかな笑顔で関わっていきます。ゆっくり、一緒に、楽しく、その人らしくを大事に寄り添っていきます。地域交流会が継続的に行なわれ、地域の方からの理解もいただけ、自動火災通報装置の連絡網への登録等協力いただけています。近所の方から野菜を頂いたり、料理の方法を教わったり交流が持っています。

理事長、管理者はより良いケアを目指して、外部研修、法人内研修、事業所内研修、新人職員のプリセプター方式での研修等職員が働きながら技術や知識を身につけていけるように、職員を育てるための充実した取り組みをされています。法人内のヒヤリはつと報告書、事故報告書を分析して、3年かけて独自のマニュアルを作成され、研修を実施しておられ、職員は利用者一人ひとりの事故防止に努めておられます。地域の人を招いての月1回の地域交流会も6年目を迎え、年間開催予定のチラシを作成され、新聞に折り込んで広く地域に参加を呼びかけておられ、地域づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでおられます。毎月の請求書と一緒に、利用者のその月の様子を写した写真と、日々の生活を伝える手紙を担当職員が書いて家族に送付され、家族に喜ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200888		
法人名	特定非営利活動法人 ありがとさん		
事業所名	グループホーム だんけぐーと有延 3F		
所在地	山口県岩国市周東町下久原36-1		
自己評価作成日	平成23年8月28日	評価結果市町受理日	平成24年4月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】 3階

人として、普通に生活できることを目指します。認知症を疾患として正確にとらえたうえで、その人にとって当たり前の生活ができるように支援することが、私たちの役割と考えています。その人の人生の仕上げのお手伝いをさせて頂いて、私たち自身も人として成長させていきたいと考えています。介護する人、される人の関係ではなく、一緒に生活している人として、目配り、気配り、心配り、そして思いやりを胸に、穏やかな笑顔で関わっていきます。ゆっくり、一緒に、楽しく、その人らしくを大事に寄り添っていきます。地域交流会が継続的に行われ、地域の方からの理解も頂け、ご家族、地域の方から意見がいただけている。近所の方から、野菜を頂いたり、浴衣の着付けをして頂いたり交流が持っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理事長、管理者はより良いケアを目指して、外部研修、法人内研修、事業所内研修、新人職員のプリセプター方式での研修等職員が働きながら技術や知識を身につけていけるように、職員を育てるための充実した取り組みをされています。法人内のヒヤリはつと報告書、事故報告書を分析して、3年かけて独自のマニュアルを作成され、研修を実施しておられ、職員は利用者一人ひとりの事故防止に努めておられます。地域の人を招いての月1回の地域交流会も6年目を迎え、年間開催予定のチラシを作成され、新聞に折り込んで広く地域に参加を呼びかけておられ、地域づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでおられます。毎月の請求書と一緒に、利用者のその月の様子を写した写真と、日々の生活を伝える手紙を担当職員が書いて家族に送付され、家族に喜ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1 2F	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは今持っている力で地域住民の一員として暮らしていけるお手伝いをします」と掲げています。また、施設内研修等で理念を再確認したり、入職時のオリエンテーションで説明し共有しています。目に付く場所に理念を掲示し、職員一同、その理念を共有し実践しています。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、玄関、ロビー、事務所等目につく場所に掲示している。内部研修等で4つある理念について、一つひとつ具体的にどのように実現していくか共有しながら、日々のケアの実践につなげている。	
1 3F	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは、今もっている力で、地域住民の一員として暮らしていけるお手伝いをします」と掲げている。また、施設内研修等で理念を再確認したり、入職時にはオリエンテーションにて説明し共有している。目につく場所に理念を掲示している。		
2 2F	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回、地域交流会を開催し、絵手紙、フラワーアレンジメントなどの文化交流、健康体操などを実施しています。天神祭の猿回しを見に行ったり交通安全マスコットを警察署に寄贈したり入居者さんと参加しています。散歩へ出かけた時などは、地域の方々と挨拶を交わし交流を図っています。また、近所の方に野菜や花など頂く機会が度々あります。	地域の行事(文化祭や運動会、発表会、清掃等)に参加し、事業所自体が地域の一員として交流している。毎月1回開催の地域交流会も6年目を迎え、年間開催予定のチラシを作成して新聞に折り込み、1500部を地域に配布して地域に参加を呼びかけて、利用者は参加者と交流している。地域の人から野菜や花の差し入れがある。	
2 3F	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩へ出かけた際など、挨拶を交わし交流を図っている。近所の方に、野菜や花、野菜の苗などをいただく機会が度々ある。また、地域の文化祭や地区の清掃、地域の幼稚園の行事等継続して参加させていただいている。交通安全推進運動にも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回、地域交流会を開催し、地域の方を講師に迎えるなどして地域の方に役立つようなカルチャー教室を実施しています。		
2F					
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回、地域交流会を開催し、地域の方を講師に迎え、地域の方に役立つような介護教室やカルチャー講座を実施している。広報誌の中で、『認知症を知ろう』というコーナーを設け、発信している。		
3F					
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者、職員は、評価の意義を理解しています。自己評価は職員全員で話し合い、意見を取り入れています。また、評価から見えてきた改善点については職員全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいます。	評価の意義を理解して、職員全員で自己評価に取り組んでいる。評価によって見えてきた課題を活かしながら具体的な改善に取り組んでいる。昨年の目標としていた利用者の思いのくみとりについて「あの頃は若かった」コーナーを設け、コミュニケーションを図る取り組みをしている。	
2F					
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	研修等に参加し理解している。ミーティング時に全職員に説明しており、自己評価も全職員の意見を取り入れている。また、結果報告も行い、評価によってみえた改善点も全職員に説明し、改善に取り組んでいる。		
3F					
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。自治会長、民生委員、消防署の方、社会福祉事務所所長、地域包括支援センター、ご家族、理事長、統括管理者、各ユニット管理者が参加しています。毎回テーマを決めて取り組みの報告をして、ご家族や地域の方の意見を聞いて話し合っています。	自治会長、民生委員、消防署職員、社会福祉事務所所長、地域包括支援センター職員、家族、運営者、管理者、各ユニット管理者で2ヶ月に1回開催している。利用者やサービスの状況、評価結果等について報告し、テーマを決めて意見交換を行い、意見をサービスの向上に活かしている。	
2F					
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々（自治会長、民生委員、社会福祉事務所所長、地域包括支援センターなど）、ご家族、理事長、統括管理者、ユニット管理者のメンバーで2カ月に1回開催している。毎回テーマを決めて、当GHの取り組みについて報告している。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6 2F	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と相談しながら、サービスの質の向上に取り組んでいます。統括管理者がキャラバンメイトで活躍しています。	市の担当者とは常に連携しながら、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えたり、介護保険の情報を聞く等協力関係を築くように取り組んでいる。	
6 3F	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町の担当者と密に連絡を取り合い、相談し、助言を頂きながらサービスの質の向上に取り組んでいる。また、統括管理者がキャラバンメイトに参加している。		
7 2F	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	院内研修を行ない、職員全員が正しく理解をしています。マニュアルも作成し、抑制、拘束のないケアに取り組んでいます。また日中は玄関の施錠は行なっていません。外出を察知すると、本人の気持ちを考慮しながら一緒に散歩や買い物に出たり工夫をしています。土日は1階が休みで不在なので、安全のために施錠をしています。	マニュアルを作成し、内部研修で職員は身体拘束について正しく理解している。玄関は施錠せず、拘束や抑制をしないケアに取り組んでいる。利用者の外出に気づいたら、一緒に散歩したり、自宅まで行くなど対応を工夫して支援している。	
7 3F	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、勉強会を実施して抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。また、日中は玄関の施錠はしておらず、玄関より出られた場合には、本人の気持ちを考慮しながら一緒に散歩したり、対応を工夫するようにしている。（土日は1階が不在のため、安全のために施錠している。）		
8 2F		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内研修で虐待について勉強会を行ったり、外部研修へ参加しています。施設内での虐待が見過ごされないように注意し、防止に努めています。		
8 3F		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、院内研修への参加で学び、共通理解をするようにしている。また、マニュアルを作成し、勉強会を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉事務局から情報をいただいています。		
2F					
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉事務所所長から情報をいただいている。勉強会等に行っていない。		
3F					
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に契約について充分にご家族に説明しています。改定などがある場合には文書でお知らせをし、理解、納得をいただいています。		
2F					
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を読んで、わかりやすく説明している。直接会う機会を多くして、十分な理解が得られるようにしている。質問等があれば、納得がいくまでお話ししている。		
3F					
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さん、ご家族からの相談、苦情の受付体制を定めてあります(各階入り口に掲示)。入居者さん、ご家族の方々が遠慮なく苦情、不満などを職員に言えるような関係作りを心掛けています。	面会時や電話、運営推進会議等で家族の意見や要望を聞き、運営に反映させている。相談苦情の受付体制や処理手続きを定め、重要事項説明書に明記や掲示板に掲示して周知を図っている。	
2F					
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の方々が遠慮なく苦情、不満などを職員に言えるような関係づくりを心がけている。面会時や電話、運営推進会議等で家族の意見や不満を聞き反映させている。苦情相談窓口、外部苦情申立機関、第三者委員を重要事項説明書に明記し、掲示板に掲示している。また、意見箱を設置している。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12 2F	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、普段の会話、管理者や理事長との面談などで意見交換し、反映させています。	月1回のミーティングや法人の主任会議において、職員から意見を聞く機会を設けているほか、日常の勤務の時や理事長や管理者との面談などでも意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
12 3F	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話やミーティング、人事考課時自己評価時に意向等を聞き反映させている。		
13 2F		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、昇給などにより、処遇改善を行なって「働きたい」という意欲が持てるように努めています。パートさんはできる限り希望する時間帯で勤務してもらい、できるだけ負担のないようにしています。		
13 3F		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、昇給等により、処遇改善を行って「働きたい」という意欲が持てるように努めている。		
14 2F	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、施設内研修を行ない、外部研修にも積極的に参加できるようにしています。また、プリセプター方式を取り入れ、新人職員の育成をしています。	外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供している。内部研修は毎月計画的に実施し、理念の実践についてやテーマを決めて行っている。法人内研修では、外部講師によるものや、救命講習、利用者の事例についての研修など実施している。プリセプター方式を採り入れた新任職員の育成や職員一人ひとりのケアの実際を把握し資格取得の支援など働きながら学べるように取り組んでいる。。	
14 3F	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を月1回行ったり、外部研修に積極的に参加できるようにしている。プリセプター方式を取り入れ、新入職員の育成をしている。また、外部講師による研修を1回/年、救命講習を1回/年行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15 2F	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所、グループホーム連絡会で、他施設の職員と交流を持ったり、勉強会などに参加しています。また、岩柳地区のグループホーム連絡会にも参加し、近隣のグループホームと情報交換をしています。		
15 3F	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会で他施設の職員と交流を持ったり、勉強会、講演会などに参加している。また、岩柳地区のグループホーム連絡会にも参加し、近隣のグループホームと情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
16 2F	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問として、ご本人の困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら信頼関係が築けるように努力しています。また、センター方式を利用しながら、パーソンセンタードケアに努めるようにしています。		
16 3F	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問したり、体験入居をしてもらい、信頼関係が築けるように努力している。センター方式を利用しながら、パーソンセンタードケアに努めるようにしている。		
17 2F	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前訪問でもご家族とよく話をし、コミュニケーションをとるようにしています。また、入居後も、よく話し合いをして信頼関係を築けるようにしています。		
17 3F	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の相談から、利用後もよく話し合い、信頼関係を築けるように努めている。入居前より頻繁に面談し、コミュニケーションをとるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18 2F		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と面談し、意向を充分引き出せるように努力しています。また、慣れるまでに不安がある方については、ご家族と一緒に宿泊していただきながら少しずつ馴染んでいただくようにしています。		
18 3F		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人さん、ご家族と面談し、意向を十分引き出せるように努力している。また、馴染むことに不安がある方については、ご家族と一緒に宿泊していただいたりしながら、徐々に馴染んでいただくようにしている。		
19 2F		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは頼りにしてやっていただいたり、教えていただいています。食事の盛り付け、掃除、洗濯物干し、洗濯たたみなどを一緒におこなっています。その中で昔からの知恵などを教えていただくこともあります。		
19 3F		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは頼りにしてやっていただいたり、教えていただいている。食事づくり、掃除、洗濯ものたたみなどを一緒に行う中で、昔からの知恵を教えてくださいることがある。		
20 2F		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話、ケアプラン説明時にご家族と相談しながら、ご本人と一緒に支えていける関係作りに心掛けています。また、自宅にいた時と同様、もしくはそれ以上に継続して、良い関係が築けるように支援しています。		
20 3F		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話時、ケアプラン説明時にご家族と相談しながら、本人さんを一緒に支えていける関係づくりに心がけている。また、自宅にいたときと同様、もしくはそれ以上に、継続してよい関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションをとる時に話題にしたり、関係・存在がある事を実感してもらうようにしています。馴染みの場所へ個別に外出する機会を作っています。	馴染みの教会に日曜礼拝に行ったり、美容院、文化祭、墓参り、自宅周辺にでかけるなど、家族の協力も得ながら、個別に外出できるように支援している。法人のディーサービスの利用者との交流もあり、馴染みの人や場との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
2F					
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションをとるときに話題にしたり、関係・存在があることを実感してもらうようにしている。馴染みの場所へ個別に外出する機会を作っている。		
3F					
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士、一緒に散歩に出たり、お互いの部屋でお話をしたり、フォローしています。		
2F					
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく、気の合う方同士が関わりあえるようフォローしている。		
3F					
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者が他施設のため連絡は取れていません。退居先の施設にはサマリー・ケアプランを提供しています。		
2F					
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先の病院へ、サマリー等を提供している。病院、施設へお見舞いに行った時に、当GHでの対応方法についてご家族さんから質問がありお話しした。また、近況をメールやハガキなどで時折連絡を頂いている。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、一人ひとりの思いや希望を尊重し、無理じいせず、思い思いに過ごしていただいています。また、何気ない会話の中で、困っていること、本人の思いを聴くことに常に気を配って、思いや意向を記録しています。	センター方式を活用し、一人ひとりの思い・希望・意向の把握のためのアプローチを一つひとつ丁寧に行っている。事業所だよりに「あのことろ私は若かった」のコーナーを設け、家族から提供してもらった利用者の若い時の写真を一緒に見ながら、コミュニケーションを図り、これまでのことを知る機会となり、その人らしい暮らしを続ける支援につなげている。	
2F					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、一人ひとりの思いや希望を尊重し、無理強いせず、思い思いに過ごしてもらっている。共に過ごしながら何気ない会話の中で、どうして困っているのか本人の思いを聴くことに常に気を配り、思いや意向を記録している。		
3F					
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご本人やご家族にセンター方式に基づいた聴き取りを行なったり、入居後も会話の中からその方の情報を一つでも多く得られるようコミュニケーションを図っています。また、ご家族にもその都度教えていただいています。		
2F					
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご本人やご家族に、センター方式に基づいた聴き取りを行ったり、入居後も会話の中からその方の情報を一つでも多く得られるようコミュニケーションをとっている。また、ご家族にもその都度教えていただいている。		
3F					
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン、ケア記録、伝達事項などを活用し、スタッフ同士で情報を共有し、入居者さん一人ひとりの状況を把握するように努めています。		
2F					
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン、ケア記録、伝達事項等を活用し、スタッフ同士で情報を共有し、利用者さん一人ひとりの現状を把握するように努めている。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見、意向、気持ちを取り入れながら受け持ち担当者がプランを作成しています。ケアプラン会議を開催し、意見交換を行なっています。必要に応じて主治医の助言をいただいています。	本人の思いや、家族の意向、受診時の主治医の意見や助言等を参考に、受け持ち担当職員がプランを作成し、ケア会議で意見交換を行い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月毎の見直しのほか、状況に変化が生じた時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意見・気持ちを取り入れながら、受け持ち担当者が立案し、各職種参加のもとケアプラン会議を開催し、意見交換を行っている。必要に応じて、医師の助言を頂いている。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録には実践、状態、反応、スタッフの思ったことなどを記入しています。また、申し送りやスタッフ間で情報交換を行なうことで、その後の援助方法やケアプランの見直しに活かされています。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に実践、状態、反応、スタッフの思ったことなどを記入することや、申し送りやスタッフ間の情報交換を行うことで、その後の援助方法やケアプランの見直しに活かされている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間の医療連携のよる健康管理や、医療の活用をしています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間の医療連携による健康管理や、医療の活用をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30 2F		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや移動図書館などと継続した関わりを持っています。また、入居前から通っておられた馴染みの場所(教会への礼拝)へ行けるように援助しています。		
30 3F		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや、幼稚園、移動図書館等との継続した関わりを持っています。また、入居前から通っておられた馴染みの場所(美容院や商店街等)へ行けるよう援助している。		
31 2F	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望する医療機関を利用しています。当施設の看護師とこまめに連絡を取り合っています。また、受診時には、医師へ近況報告のお手紙をつけています。必要に応じてスタッフが付き添っています。	本人及び家族の希望するかかりつけ医で事業所の看護師と連携しながら、適切な医療が受けられるように支援している。月1～2回の受診時には家族と共に担当スタッフが同行したり、担当スタッフ以外の時は状況報告の手紙を渡すなどかかりつけ医との連携を図っている。	
31 3F	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望する医療機関を利用している。当施設の看護師とこまめに連絡を取り合っている。また、受診時には、医師へ近況報告のお手紙をつけ、フィードバックしている。必要に応じて、スタッフが付き添っている。		
32 2F		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者さんの健康状態、薬の変更、急変時には随時、当施設の看護師に報告、相談しています。また、医療連携体制をとっており、協力病院看護師とも協力体制をとっています。		
32 3F		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんの健康状態、薬の変更、急変時には、随時当施設の看護師に報告、相談しています。また、医療連携体制をとっており、協力病院看護師とも協力体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	2F	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護要約を提供しています。入院中は当施設の看護師が病院関係者と連絡を取り合ったり、本人の状態を観に行っています。また、ご家族の相談も受けています。		
33	3F	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護要約を提供している。入院中は、当施設の看護師が病院関係者と連絡を取り合ったり、本人の状態を観に行っている。ご家族の相談も受けている。		
34	(14) 2F	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化指針について説明しており、重度化、終末期には医師、ご家族、ご本人、スタッフ等とケアカンファを開き、方針を話し合い、より良い方法を考え共有しています。他施設や病院などへ移動の場合は看介護要約、ケアプラン等の提供を行なっています。また、終末期には看取りの合意書を交わしています。	契約時に利用者、家族に重度化や終末期に向けた指針について説明している。実際に重度化した場合は、本人、家族、医師、職員、関係者等で話し合い、事業所で対応しえるケアについて説明し、共有して、支援に取り組んでいる。これまでに2名の看取りをしている。	
34	(14) 3F	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針について説明しており、重度化・終末期には、医師、家族、本人、スタッフ等とケアカンファレンスを開き、方針を話し合い、よりよい方法を考え共有している。他施設や病院などへの移動の場合は、看介護サマリーやケアプランの提供を行っている。また、終末期には看取りの同意書を交わしている。		
35	(15) 2F	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故などがあった時は「ひやりはっと事故報告書」を作成し、皆で共有し、対応を考え、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むようにしています。法人独自のマニュアルを作成し、いざという時に備えています。また、施設研修で再確認しています。	「ヒアリはっと報告書」や「事故報告書」を基に、3年間の事故報告をまとめ独自のマニュアルを作成している。内部研修でマニュアルに沿って一人ひとりの状況に応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身につけている。	
35	(15) 3F	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故があった時は、ひやり・はっとや事故報告書を作成し、皆で共有し、対応を考え、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むようにしている。法人独自のマニュアルを作成し、いざというときに備えている。また、施設内研修で再確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防避難訓練を行ったり、運営推進会議で災害時の避難について話し合っています。また、緊急連絡網を作っています。自治会長や近隣住民と災害避難について話し合い、風水害地震マニュアルを作成し、施設内研修で全職員に周知しています。各階にスプリンクラーを設置しています。	年2回、夜間想定も含めた消防避難訓練を実施している。風水害地震マニュアルを作成し、内部研修で利用者の避難方法を全職員が身につけている。運営推進会議で災害について話し合い、自動災害通報システムの中に地域の人(2名)も入ってもらい、協力を得られるようにしている。風水害の自治会連絡網に事業所も組み込まれており、事業所を避難場所として提供できることも伝えるなど地域との協力体制を築いている。	
2F					
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練、避難訓練を行ったり、運営推進会議で災害時の避難について話し合っている。緊急連絡網を作っている。自治会長や近隣住民と災害避難について話し合い、風水害地震マニュアルを作成し、施設内研修にて全職員に周知している。各階にスプリンクラーを設置している		
3F					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないように言葉かけをして、さりげなくフォローしています。記録物はスタッフ間のみで共有できるようになっています。	人格の尊重やプライバシーの確保について研修を行い職員は理解して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。声かけをして利用者の反応をうかがい3秒待つことを心がけ、一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーの確保を徹底している。	
2F					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者の前で間違いや失敗を指摘したりせず、さりげなくフォローしている。記録物は、職員間のみで共有できるようにしている。		
3F					
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた言葉かけを行ない、ご本人の意見が出せるように工夫しています。		
2F					
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた言葉かけを行い、ご本人の意思が出せるように工夫している。		
3F					

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせてマイペースに過ごしていただいています。入浴、食事、就寝、起床の時間はだいたい決めています、無理強いすることなく、ご本人の体調、気分に合わせて対応しています。		
2F					
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いすることなく、マイペースに過ごしていただいている。入浴や食事、就寝や起床の時間帯は概ね決めているが、本人の体調や気分等にあわせて柔軟に対応している。		
3F					
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容利用時はご本人の希望する髪型にカットしてもらっています。近所の洋服店に一緒に行き、好みの洋服を買ったりすることもあります。また、外出時にはお化粧品をしています。		
2F					
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される方は、馴染みの店に行けるように援助している。訪問美容利用時は、本人さんの希望する髪型にカットしてもらっている。外出時には、一緒に服を選んだり、お化粧品をしている。		
3F					
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	夜勤者が入居者さんのリクエスト、好きな物や近所の方からいただいた野菜を使う料理を考えながら献立を立てています。また、食事の準備、片付けをできる方に手伝っていただきながら行なっています。	調理担当職員を確保している。夜勤者は利用者の要望を聞き、近所からもらった食材を取り入れながら、献立を立てている。利用者と職員が一緒に調理、盛り付け、配膳、片付け等行っている。職員も同じものを食べながら会話し、見守りや介助をしながら穏やかな雰囲気です。	
2F					
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	夜勤者が利用者のリクエストや近所からいただいた野菜を使う料理を考えたりしながら、献立をたてている。食事の準備、片付けを、できる方、好きな方に手伝っていただきながら行っている。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのその時の状態に合わせて、食事の状態を変えたり、臨機応変に対応しています。水分摂取の少ない方には本人の好みに合ったものなどを提供して摂取を促しています。		
2F					
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのその時の状態に合わせて状態を変えたり、臨機応変に対応している。水分摂取量の少ない方に対しては、本人の嗜好にあったものなどを提供し、摂取を促している。		
3F					
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアを行っています。また、週1回義歯を消毒しています。異常を見つけたらすぐに歯科受診に行けるように援助しています。		
2F					
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。週に1回義歯を消毒している。異常を早期発見し、歯科受診を援助している。		
3F					
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンや習慣、尿意等のサインを把握しながら、その方にとって快適なより良いケア方法を行なえるように努めています。また、ケア方法やパットの種類なども時間帯、状況に合わせて使い分けています。	1日の変化シートを1週間記録し、利用者のからの排泄のサインや排泄パターンを把握し、一人一人に応じた声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
2F					
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンや習慣、尿意等のサインを把握しながら、その方にとって快適な、よりよいケア方法を行えるよう努めている。また、ケア方法やパットの種類なども、時間帯、状況に応じて使い分けている。		
3F					

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給が難しい場合は、ご本人の嗜好に合わせた物を提供したり、摂取しやすい形態にするなどして対応しています。また、できるだけ身体を動かしていただくように散歩やレク等に誘い、働きかけています。		
2F					
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取が難しい場合については、ご本人の嗜好に合わせたものを提供したり、摂取しやすい形態にするなどして対応している。また、できるだけ身体を動かしていただくよう、散歩やレクに誘い働きかけている。		
3F					
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できるように機会を提供しています。不穏な状態などで拒否があった時は無理強いせず、気分転換を図ってから再度お誘いしています。	毎日、10時30分～17時の間一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆつくりと入浴を楽しむことができるよう支援している。入浴したくない利用者には無理強いせず、声かけやタイミングを工夫して支援している。	
2F					
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できるように機会を提供している。不穏状態などで拒否があった場合は、無理強いせず、気分転換を図り、気分を変えてから再度誘ったりしている。		
3F					
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて休みたい時は休んでいただいています。夜間不眠がみられる時は日中の活動を増やしたり、夜間安眠できるように支援しています。		
2F					
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が、起こらない程度に、休みたいときは休んでいただいている。また、夜間不眠がみられる方には、日中の活動を増やすなど、夜間安眠できるように支援している。		
3F					

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用については、カルテなどにファイルして把握しています。症状が変化した時は医師や看護師に速やかに連絡を取って指示を仰いでいます。		
2F					
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用については、カルテにファイルされ把握している。症状が変化した時は、医師や看護師に速やかに連絡を取って指示を仰いでいる。		
3F					
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、得意なことを主役になって行なってもらえるように支援しています。(調理手伝い、洗濯、食器片付け、レク、手芸など)	縫物、お手玉や交通安全のマスコットづくり、棒体操、運動会大玉ころがし、風船バレー、洗濯物たたみ、食器片付け、読書など楽しみ事や活躍できる場面づくりをしている。	
2F					
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、得意なことを主役になって行ってもらえるよう支援している。(調理、洗濯、食器片付け、掃除、手芸、レク)		
3F					
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所へ散歩に出かけたり、他フロアへスタッフと出かけたりしています。また、食材の買い出しなど同行していただいています。「外へ出たい」等の要望や帰宅願望などがあれば、付き添って気分転換を図っています。花見や秋の行楽などの外出計画を立てて実施しています。また、馴染みの場所や店、自宅などへの外出、外食なども個別に行なっています。	散歩や食材の買い物、文化祭、運動会、馴染みの店、自宅への外出、外食等その日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。フラワーランド、花見、紅葉狩り、徳山動物園等季節行事に家族と一緒に出かけられるように支援している。	
2F					
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩や他フロアへの訪問に誘ったりしている。また、食材の買い出しなどに同行していただいている。「外へ出たい」、帰宅願望などがあれば付き添って気分転換を図っている。花見や秋の行楽、幼稚園行事地区の文化祭、交通安全推進運動等外出計画をたて実施している。また、馴染みの場所や店、を個別に行っている。		
3F					

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51 2F		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望に応じて、お金を所持、使用しています。スタッフが「お預かり金」を管理し、希望する時に一緒に買い物に行ったり、代行しています。		
51 3F		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて、お金を所持、使用している。職員が、お預かり金を管理しており、希望時等に一緒に買い物に行ったり、代行している。		
52 2F		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご本人からご家族や友人に電話をかけられるように支援しています。		
52 3F		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が上手に使用できるように援助している。希望があれば、電話の援助をしている。年賀状などの季節のお手紙を書けるように援助している。		
53 2F	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の様子を掲示したりして、見た時に「この時は〇〇でしたね」等と会話を楽しんでいます。台所は開放的で調理の様子も見え、音や匂いもフロアに伝わっています。不快な音や光がないようにテレビの音量や部屋の明るさの調節、カーテンの開閉などを入居者さんに確認しながら行なっています。	リビングは広々として明るく、窓から四方の景色を眺めながら、四季の移り変わりを感じることができる。厨房は広く、調理の音やご飯の炊ける匂いがし、生活感があり、五感刺激を感じるように工夫されている。ソファや椅子が配置され、共用空間には利用者の作品や、行事の様子が掲示され、温もりのある空間となっている。	
53 3F	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	折り紙、ちぎり絵で季節に合う作品を利用者と職員で作し、壁に飾っている。台所は開放的で、調理の様子も見え、音や匂いもフロアに伝わっている。不快な音や光がないように、テレビの音量やカーテンの開閉などの調整を、利用者に確認しながら行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座る位置は特に決めてはいません。(食事の時はだいたい決まっています)それぞれが好きな場所に座っておられます。ソファも設置し、寝転んだりしながらゆっくりと過ごしています。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの座る位置は特に決めておらず、それぞれ好きな場所に座っておられる。ソファも設置し、寝転んだりしながらゆっくりと過ごされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや衣装ダンス、小物などは、ご本人が使われていた馴染みの物や好みの物をほとんどの方が持って来られています。	居室に洗面台が備え付けられ、衣装ダンス、テレビ、座イス、家族写真、仏壇等好みのものを持ち込み、安心して過ごせるように支援している。	
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小物、カーテン等、なじみのものや、好みのものを持ちこまれている方がほとんど。片付けができない方については、一緒に片付けなどの援助をしている。		
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来なくなったこと、分からなくなったことは一緒に行なってフォローしながらうまくできるように入居者さんに合った声かけをしています。バリアフリー、クッションフロア、手すりを設置しています。		
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わからないこと、出来なくなったことは、一緒に行ったりフォローしながら、うまくできるように、利用者さんに合った声かけをしている。バリアフリー、クッションフロア、手すりを設置している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 だんけぐーと有延

作成日: 平成 24年 4月 20日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	職員を育てる仕組み 法人開設10年を迎え、勤務年数3年以上の介護リーダーや中堅職員が半数。3年未満の職員が半数の現状である。経験年数の浅い職員をどう育てていくかが、職員定着の鍵であり法人全体の質の向上につがると考える。	・認知症を病気と理解できる。 ・パーソンセンタードケアを理解し、日々実践できる。(寄り添うケアを考える事が出来る)	24年度院内研修のテーマを決め、月ごとに研修を行う。 ①介護とは何か。職員としての心構え ②認知症の医学的理解 ③認知症の心理学的理解 ④認知症の障害の本質を知る。等	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。